

## 社会部会

### < 県研究主題 >

社会的な見方や考え方を養い、よりよい社会の形成に自ら参画していく  
資質や能力を育成する学習指導と評価の工夫・改善

## 提案 1

提案者 森 康昭（横浜地区）

### < 研究主題 >

社会的な思考力・判断力・表現力を育てる指導と評価の在り方  
～分布図の活用を通して地理的な見方や考え方を深める学習～

## 1 提案内容

### (1) 主題設定の理由

県研究主題には社会的な見方や考え方を養うことがうたわれている。そこで本研究では地理的分野において、分布図の活用を通して地理的な見方や考え方を深め、社会的な思考力・判断力・表現力を育てる指導と評価を研究したいと考え、本研究の主題として設定した。

### (2) 研究内容

社会的な思考力・判断力・表現力を育てるために、「世界の諸地域」の学習において、分布図の活用を通して地理的な見方や考え方を深める学習を実践する。

#### ① 単元設定の理由

本単元は「世界の諸地域」の「アジア州」にあたる。アジア州は他州に比べて多様性がみられ、地域的特色を大観するのが難しい地域である。一方で人口が世界の約6割を占め、その多くが東・南アジアに分布している。そこで、アジア州を大観した上で、人口の分布に着目させてアジアの地域的特色をとらえさせようと考えた。その際、単元のテーマを「アジア州では人口がどのように分布しているのか」とし、特に人口が多く、分布の偏りが顕著な中華人民共和国とインドを取り上げ、この二つの国の共通点や相違点を見いだしたり、他のアジア地域と比較したりしながら地域的特色をとらえさせる。

#### ② 分布図の作成と活用について

地理的分野においては、社会的事象がどこにどのように広がっているかをみる力を身につけさせることが大切である。そこで本単元では、中華人民共和国とインドの人口の分布図を作成することで、人口の広がりをとらえさせ、その地域の地形や気候、農業や工業などの主題図と重ね合わせながら、人口分布の地理的条件を考えさせることとした。また、この単元の学習を通して、人口分布の一般的共通性に気づくとともに、日本の諸地域の「人口や都市・村落を中核とした考察」の学習においても役立つと考えられる。

#### ③ 地理的な見方や考え方について

地理的な見方や考え方とは、「どこに、どのようなものが、どのように広がっているか」をとらえたり、「なぜそこにそのようなものが広がっているのか」を考えたりしながら、その地域の変容や特色、課題などを考えることである。本単元では分布図を作成し活用しながら、調べたことを記述したり、説明したり、討論したり、論述することを通して、地理的な見方や考え方を養い、社会的な思考力・判断力・表現力を育てたい。

#### ④単元の指導と評価

##### (ア) 単元全体の指導・評価計画の作成

単元のねらいと毎時間のねらいを明確にし、それに即してどの時間にどんな観点で評価するかを作成する。これによって単元全体を通してバランスよく各観点の力が身についたかがわかる。また、単元を通して質的な高まりや深まりがみられたか意識することができる。

##### (イ) 具体的な評価場面と評価規準の作成

毎時間の具体的な評価規準を作成し、それを何をもとにみとるかを明確にし、おおむね満足できる状況のみならず、十分満足できる状況についても、あらかじめ示しておく。これによって B と A の質的な違いを意識して評価できる。

#### (3) 成果と課題

- ①単元計画と評価計画が十分練られており、生徒に身につけさせたい思考力・判断力・表現力とそれを身につけさせる手立てがはっきりしていた。
- ②社会科の力を身につけさせるための言語活動として、資料やワークシートを工夫し、説明や討論、論述させる時間を活用していた。
- ③課題については、指導と評価の一体化を一層進めること。特におおむね満足できる状況と十分満足できる状況の違いについては、どうみとるかが課題と考えられる。

## 2 協議内容

- (1) 世界の諸地域の学習において、州の学習順序と主題設定をどうするかが話し合われた。順序については、生徒の身近さや学習の系統性などをふまえて、担当教諭の意図的な計画により工夫すべき。
- (2) 単元の評価をみとるために、単元全体を通した1枚のワークシートを作成するのはとてもよい。毎時間にわかったことや、単元の始めと終わりの思考の変容なども自覚できる。
- (3) 本単元は地理的分野なので、分布図の作成や主題図の読み取りが重要であり、工夫がみられた。

## 3 まとめ

社会的な思考力・判断力・表現力を育てるために、地理的分野においては地理的な見方や考え方を養う学習指導と評価が大切である。本提案では人口分図の作成と活用を通して、地理的条件を考える活動を組み込み、かつ様々な言語活動を取り入れながら単元を構成していた。まさに今求められている習得したことを活用し課題・問題を解決していく学習指導の工夫がなされていた。

今後は、課題解決学習の核になる「単元全体の学習課題」や「各時間の学習課題」を一層工夫し、社会的な思考力・判断力・表現力が育つ課題設定を考えていく必要がある。

<研究主題>

「指導計画と評価計画」

## 1 提案内容

単元の「指導計画」と主な学習活動の「評価計画」

### (1) テーマ設定の理由

「習得」・「活用」・「探求」という学習方法は、決して新しいものではないと考える。これまでの学習においても、授業者は、「習得」「活用」「探求」という学習方法を“あまり意識せずに実践”してきたといえるのではないだろうか。以上のことから、今後は、より「意識的に計画的に」これらを実践していくことが求められているのではないかと考えた。そこで、「意識的に計画的に」日々の授業を組み立てていく、授業を構成していくうえで役立つかもしれないシンプルであり作成のしやすい『単元の「指導計画」と主な学習活動の「評価計画」』表、といったものを提案しようと考えた。

### (2) 提案内容

①単元の「指導計画」と主な学習活動の「評価計画」と計画表

②社会科における「言語活動」の内容と「育てたい力」や「活動領域」、「学習形態」との関係と評価シート

③実践例

ア. 「経済の成長と幕政の改革」の指導計画と評価計画

イ. 「幕政の改革」において、幕政改革で行われた様々な政策の中で「最もよい政策」と現在の日本に必要な「財政再建策」をグループで考える。

## 2 質疑応答など

(1) 評価計画は難しい。マニュアル的につくられたのは活用できる。生徒の発言の評価はどうしているのか。

→評価は難しい。生徒の発言を加味しながら、生徒の書かれた物で評価する。

(2) 評価計画と評定はどう結びつくのか。また資料が膨大にならないか。

→そこまでは考えていない。毎授業は評価できない。評定に結びつけるのは難しい。

(3) 情報交換（単元の評価計画をどのようにしてつくっているのか。）

①おもいつきはなく計画的に行う。

②指導案を作るときに意識させる。単元計画を持ち寄って情報交換。

③年間指導計画をたてるときに考えてもらう。一単元で無理のないものを考えてもらう。

④地区のスタンダードを作る。最終ゴールを設定し、各自工夫する。

⑤言語活動自体を評価対象にすべきなのか。

⑥単元構想図を作成する。C→Bの支援はやるが、B→Aへの支援を強化すべき。

### 3 グループ協議

#### 提案1・2をふまえた協議

「思考力・判断力・表現力の評価方法や場面の工夫」をどうしているか

##### (1) Aグループ

どのように見とるか。表現がしっかりしていないと見とれない。発表活動を通じて単元の学習を通じて、最後にまとめる。

##### (2) Bグループ

「ぶれないものを1つもつ」ゴールを明確に示す。変容が見れるものが大切である。

##### (3) Cグループ

発問の工夫が大切である。

##### (4) Dグループ

自己満足の授業ではだめだ。ならいがないと評価できない。見とれる所と見とれない所がある。

##### (5) Eグループ

時代のまとめ方を説明し教科担当が基準を作る。言語活動は、目的ではなく手段であることを忘れてはならない。

##### (6) Fグループ

一単元を400字程度でまとめる。単元の前、中、後で書かせ変容をみる。

### 4 まとめ

(1) 小学校との内容の関連を意識すべきである。

(2) 言語活動の充実と実践上の課題

言語活動自体は評価対象ではないという意見と、何らかの形で評価すべきではという意見があるが、「指導とねらいの関係がはっきりしない」や「学習評価との関係がはっきりしない」という状態は避けるべきである。

(3) どんな力を身につけさせたいのかを、筋道を立てることが大切である。